

# 国際交流員の活動日誌

vol.55



Information

市政だより英語ダイジェスト版を市役所、総合支所、保原駅、梁川駅で配布しています。

## 「災害時の集い」 Disaster Gathering

日本の10月は強い台風の月だと思えます。台風は来日してから初めて経験した事で、故郷のシアトル市ではあり得ないです。しかしシアトルでは秋になると、暴風は多く、度々停電になります。子どもの時、家族は皆で居間に集まって、ろうそくの灯りの中で話したり風を聞いたりしていた事が思い出されます。

2年前の令和元年東日本台風が近づいた時、同じような事をしてみました。僕は安全な所に住んでいるの

で、激しい雨が降る前に河川の近くに住んでいる友達を集めました。唐揚げやいろいろなおやつを食べながら、充電している携帯電話でニュースを見ました。結局僕が消防団に呼ばれたので、友達は帰宅しましたが、その後避難指示によって避難所に行った友達もいました。

これからもこんな集いを開催したいです。外が危険になる前に、安全な家で食事などを楽しみながら安全の確保をするためです。近年は感染防止対策も考えなければなりません。家族など少人数の集まりのほうが大人数で混んでいる場所に行くより安全です。災害時には家族や友達とのつながりが普段以上に大切だと感じます。

このつながりを大切にしながら、皆で命を守りたいです。

## 地域の魅力 ふる里再発見

### 企画展「富田洋々亭と狂歌」② ～富田洋々亭の作品～

企画展  
富田洋々亭と狂歌  
12/26日まで開催  
保原歴史文化資料館

狂歌は、社会風刺や皮肉、滑稽を盛り込み、五・七・五・七・七で構成した短歌（和歌）です。江戸時代の天明年間（1781～1789）に江戸を中心に流行し、以後全国に広まっています。

狂歌では「連」と呼ばれる同好者の集団をつくりまします。作品募集、成績優秀者をまとめた「番付」、浮世絵師が描く姿絵を含む作品集が数多く出版されていますが、大半は江戸での出版になります。

作品集のひとつ『狂歌陸奥百歌撰』は、千柳亭唐丸の編者、文政2（1819）年に仙台の芳潤館という版元から刊行されたものです。大半の狂歌集は、狂歌号（ペンネーム）で読んでおり、実名は不明なことが多いですが、この選集は陸奥国内で活躍していた狂歌師の居住地と実名が記してある貴重なものです。宮城県と福島県の狂歌師

百人の名前と狂歌が掲載されており、福島県内では白河13人、桑折5人、福島4人、伊達4人、国見4人、郡山3人と続き、全45人が確認できます。

伊達市内には倉光（伊達・氏名不詳）、本場亭種彦（伏黒・小野左右輔）、畠竹廣（伏黒・富田洋々亭）、広大寺無遍法師（伏黒・光臺寺住隆禅）の名前が記載されています。この中から、富田洋々亭の狂歌を紹介します。

ほととぎす  
親のまねして卵の花の  
雪の中より告る一声



『狂歌陸奥百歌撰』（個人蔵）より洋々亭の掲載部分  
描かれている人物は洋々亭である。「畠竹廣 別号 洋々亭」の記載も読み取れる。